

フロンティアスクール中間報告書

都道府県名

青 森 県

．学校の概要

八戸市立下長中学校					
	1年	2年	3年	計	教員数
学級数	6	6	6	18	32
生徒数	185	232	236	653	

．研究の概要

1．研究主題

- 「すすんで学ぶ生徒の育成」
- 確かな学力を定着させるための指導の研究 -

研究主題設定の理由

現在の子どもたちを取り巻く社会環境は、決して好ましいとはいえない。物質的な豊かさや便利さの中で生活しているものの、「ゆとり」のない生活を強いられている。また、生活経験・社会経験の不足、少子化などを背景として規範意識の低い子どもや人間関係を構築できない子どもたちが増えてきている。このような現在の子どもたちの傾向として、成績や進学面に関しては関心が高いが、学習が受け身であり、めあてを持ち、自ら学び、自ら考え、主体的に判断して行動する力に欠ける。本校の生徒・保護者アンケートの結果からも「学習・成績」についての関心は決して低くはない。しかし、「自己の伸長」のための地道な努力や現状の改善に向けての意識が低く、教師側も指導法を大きく変化させていく必要がある。

そこで、今年度から研究主題を「すすんで学ぶ生徒の育成 - 確かな学力を定着させるための指導の研究 - 」とした。学習指導要領のねらいに、「確かな学力」の育成が掲げられている。「確かな学力」とは「基礎的・基本的な学習内容の定着」とその上に成り立つ「発展的な力」であり、さらに本校では数値的な部分だけでなく「関心・意欲」も大切な要素としてとらえて研究を進めていきたい。また、教育目標「心身の健康と自他の向上に努める生徒を育成する」とは、生徒個々が自分のめあて（到達目標）を持ちそれに向かって努力することであり、また知・徳・体の「調和のとれた人間像」の育成を目指すことであ

る。そのためには生徒一人一人の実態に応じたきめ細やかな指導の充実を図るための研究を進め、子どもたちに最低ラインの学力の保証をしていきたい。

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

- ・ 2 学年の数学 習熟度別少人数指導 (2 C 3 T)

これまでの考査や検査の結果から考察して、差が出やすい教科、学年であるため。

- ・ 2 学年の英語 T T 指導

生徒の意識調査の結果から、対話文やコミュニケーション能力を中心に研究に取り組むため。

- ・ 全教科において評価研究と授業改善を行った。

特定の教科だけでなく、全教科で評価研究及び授業改善に取り組んだ。

(2) 年次ごとの計画

平成
15
年度

テーマ 「 すすんで学ぶ生徒の育成 」

- 確かな学力を定着させるための指導の研究 -

仮説 日常の学習活動において次のような実践を通し、「確かな学力」の定着と向上を図ることができる。

個に応じた指導のための学習形態・学習方法の工夫。

基礎・基本を定着させるための教材を研究・開発する。

評価規準を明確にした授業の実践。

研究内容・方法

(1) 『フロンティア三部会』による研究推進

【授業研究部】

数学科・英語科の教員で構成

「英語」における T T 指導を実施

- ・ 研究授業 平成 1 5 年 1 1 月 1 2 日

「英語」 - T T 指導 -

授業者：西谷 治・花田正樹

題材名 『PROGRAM 6 の復習』

助言者：正部家光彦指導主事（市総合教育センター）

2 学年「数学」にて習熟度別少人数授業を実施

A	トキコース（上位群）	25名程度
B	コンドルコース（中位群）	35名程度
C	若鷹コース（下位群）	15名程度

（生徒・保護者の希望による2C3T）

- ・人数の割り振りの工夫
- ・クラスごとの到達目標の設定
- ・指導内容の検討
- ・研究授業 平成16年2月4日

「数学」- 習熟度別指導2C3T -

授業者：村田正茂・鈴木小百合・池田光隆

題材名『平行線と面積』

助言者：正部家光彦指導主事（市総合教育センター）

大塚弘昭指導主事（ " " ）

【評価研究部】

- ・「通信票」の改善
- ・「座席表」の有効活用

【意欲開発研究部】

A 班（主体的要因に関する分野）

身体的健康、能力、性格・情緒、過去の経験、生活習慣、学習習慣、学び方など。特に欲求不満に耐える力や努力して目標を達成する力を培う。

- ・「学習習慣」の改善、部活動での取り組み
- ・「家庭学習のしかた」

オリエンテーション、しおりの作成、生徒モニター

- ・データ収集と分析（生徒意識調査、NRT、考査）

B 班（環境的要因に関する分野）

学校環境（教育課程、教育方法、教師の指導力、人間関係、教室環境）などの改善を通して学習意欲の喚起を図る。

- ・「学習環境」……『学習の約束事』『朝読書』
- ・「選択教科」について（16年度の計画）
- ・「総合的な学習の時間」について（16年度の計画）

(2) 教科毎の研究と実践

基礎・基本の定着を図るための教材開発と評価の研究

【授業研究会】

7月 7日「国語」授業者：野田基行

題材名『文の成分』

10月16日「技術・家庭科」授業者：星 雅子

題材名『魚料理 - 鮭のムニエル - 』

11月 4日「美術」授業者：山内富美子

題材名『青森県の美術 - 棟方 志功 - 』

12月15日「社会」授業者：河村 直

題材名『大正時代の「人」を調べよう』

2月 3日「道徳」授業者：花田 正樹

主題名『差別や偏見を許さない態度』

教科毎にTT指導を計画的に実施

平成
16
年
度

テーマ

15年度のテーマを踏襲する。

仮説

15年度のテーマを踏襲する。

研究内容・方法

(1)『フロンティア三部会』による研究推進

【授業研究部】

- ・2学年「英語」：習熟度別少人数指導（2C3T）
- ・3学年「数学」：習熟度別少人数指導（2C3T）

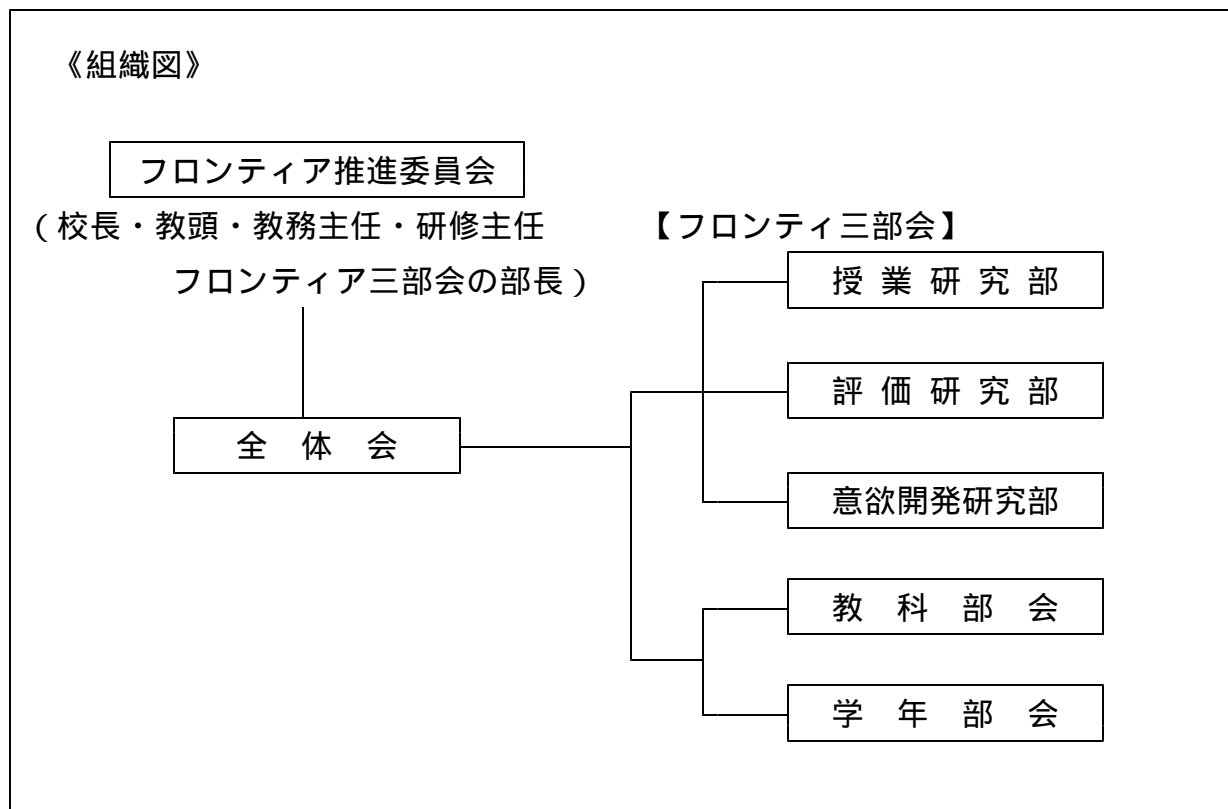
【評価研究部】

- ・通信票の見直し
- ・座席表の活用(生徒理解のためのカルテ型)

【意欲開発研究部】

- ・1・2学年「選択授業」：5教科選択を1教科8コース
(基礎コース4、応用コース2、発展コース2)
- ・「総合的な学習の時間」の活用 ……『総合基礎』

(3) 研究推進体制



・平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 指導体制作り

(1) 成果

本事業を総括するフロンティア推進委員会を設置し、その下に具体的な活動を進める三部会を設けたことで、円滑に研究・実践を進めることができた。三部会には全教員がいずれかに所属し、全校体制で取り組むことができたことが成果といえる。

(2) 課題

年度当初に研究指定を受け、指導体制作りから研究主題の共通理解に至るまで時間がかかってしまい、研究・実践が立ち後れてしまったことが反省としてあげられる。16年度は15年度の反省を踏まえ、三部会を中心とした研究を深めていきたい。

2. 2学年「数学」における習熟度別少人数指導

(1) 成果

習熟度別少人数指導(2C3T形式)の授業の実施は3学期からとなったが、

クラス編成では習熟度確認テストの結果・保護者及び生徒の希望をもとに、生徒の習熟の程度に合ったクラス編成をすることができた。また担当教師間の緊密な打ち合わせのもとで、学習内容、課題提示の工夫や到達目標の設定をすることができた。その結果、生徒の感想からは「人数が少なく分かりやすい」「学習意欲が出た」などの意見が多く、学習への主体性を喚起できたと言える。

(2) 課題

習熟度別少人数指導では指導者の配置や時間割を工夫するとともに、進度確認・目標の明確化を図るため、担当教師間の打ち合わせをより緊密にする必要がある。

生徒間に差別意識や無能感を抱かせないような指導していかなければならない。

コースによって扱わない学習内容が生じないように、手だてを工夫する必要がある。

3. 「英語」における T T 指導の形態

(1) 成果

T T 指導を週に数時間は設定することができ、会話文やコミュニケーション能力を育てることができた。

(2) 課題

T T 指導の効果を上げるための役割分担（協力型・分担型）の研究が今後の課題といえる。また、T T の実施のためには教員の確実な加配をお願いしたい。

4. 基礎・基本の定着を図るための教材開発と評価の研究

(1) 成果

教科部会を中心に研究テーマを設定し、授業改善を目指した評価研究・教材開発・T T 指導を行うことができた。その結果、特定の教科に偏らずに全教科・領域で取り組もうとする意識を高めることができた。

(2) 課題

教科の共通課題を単に「評価研究」と題して大枠の取り組んだが、次年度は評価について評価項目・規準・方法など、焦点を絞った取り組みにしていく必要がある。

学力把握のための学校としての取り組み

1. NRTの実施（平成15年4月実施、平成16年4月実施予定）
2. 年4回の定期考査（平成16年度は年5回の定期考査を実施予定）
3. 生徒の意識調査（年3回、学期末に実施）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1. 平成16年度実践発表（予定）
日 時 平成16年11月9日（火）
場 所 八戸市立下長中学校
テ ー マ （仮題）
対 象 三八管内全小中学校・県内指定校
2. 三八管内教務主任研究協議会での発表

【新規校・継続校】	✓ 15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下 7～9学級 13～15学級	4～6学級 10～12学級 ✓ 16学級以上		
【指導体制】	✓ 少人数指導 その他	✓ T.Tによる指導		
【研究教科】	国語 ✓ 外国語 保健体育	社会 音楽 その他	✓ 数学 美術	理科 技術・家庭
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		✓ 有	無	